

は未數年を出ずして沈淪し歸せざるを得べからば
誰う之を歎らざるべき余大に望む所ありて三宅島壬
生氏に詢らむとれ聞ならく氏が家は神裔を以て數世
神官を辱なくし古來島政を掌り島民の属望を受る淺
くならずと是皆神恩の厚し出る云ふまでも非ざ切に
請ふ氏と率先志を比し立了同憂諸士と謀り佐伎多麻
比咩命の社殿を清潔崇高に創建して同神を正座とし
八柱の御子神を左右相殿に配祭して以て神名を無窮
に存し恩頼を千歳に仰ぐの舉あらむ事を然る時は則
上は以て神恩の厚し報じ下は以て島民の属望に答へ

而して孝を祖先に伸べ功を後昆に垂る何事か之より加
ふるを得べき嗚呼氏と鞠躬盡力幸し余が言を空しく
する事勿と

伊波氏別命神社

賀茂郡岩殿村鎮座いはでわけのみま神階今稱諏訪明
神社なりや及証註進特選今亦小祠やなる旧説ふ二十里を
隔て志君次郡梅名村右内神社を當たるは迂繆も亦甚
しからずや

總都佐和氣命神社

同郡大瀨村鎮座をつさまけの明神神階旧稱王子明神